2016年
6月15日号
第81号

日本統一運動
News Letter

VISION 2020
Japan Unification Movement News Letter

全国民にみ言伝える天の役軍となろう！

本部と全地区に伝道推進本部発足

６月２日、東京・渋谷の家庭連合本部内に「全国伝道推進本部」が発足しました。全国の地区、教区、教会にもそれぞれ「伝道推進本部」が設置され、VISION2020の勝利と天一国安着に向けて、これまで以上に伝道に本腰を入れて取り組んでいきます。そこで、このたび全国伝道推進本部の本部長に就任した徳野英治会長に、伝道強化の背景などについて語って頂きました。（文責・広報局）

真のお母様は、絶えず私たちに「1億２千万のすべての日本人、73億の全人類に真の父母を伝え、神氏族メシヤの使命を果たしなさい」と願われ、「伝道して霊の子女を増やすことが一番の“富者”になる道です」と激励してくださいます。

VISION2020を勝利するためには、神氏族メシヤの勝利による救国救世基盤の造成が“柱”となりますが、外的には数の基盤が必要です。それを成すためにも、私たちは改めて真の父母様のみ言の伝統に立ち返る必要があります。

真のお父様は『一心不乱、一生懸命』のみ言で次のように語っておられます。

「1月に1人ずつ伝道しなければならない。……1人が1人ずつ1月に伝道するところに、その実績の基台に、天国は社会的に開かれる。……1月に1人ずつ伝道すれば7年費やしてこそ、初めて84人の条件的な基準がつくられる」（1973年7月8日、東京教会）

過去の歩みの足らなさを悔い改めた上で、責任者が先頭を切って霊の子を立て、神氏族メシヤの使命を果たし、今度こそ悔いを残さない歩みをしよう――。そういう再出発の決意を固める中で、全国に伝道推進本部を設置する運びとなりました。

真のお母様は、私たちの過去のすべての足りない歩み、罪深い歩みを帳消しにし、「サタンからいかなる讒訴も受けない“正午定着”の信仰者として、真の孝子孝女として再出発させてあげたい」という思いで、私たちに天一国４大聖物を下さいました。

その恩賜に報いるためにも、私たちは本来の責任分担である伝道の勝利、神氏族メシヤの使命完遂に向けて、もう一度決意して取り組んでいかなければなりません。

私たちの教会の真の価値、目的、そして統一運動の目指す方向性をはっきりと知って頂ければ、「真の家庭建設を通じた理想世界の実現」以外に日本の救国救世の道はないということが、多くの人々に分かって頂けると思います。

天は私たちを通して、私たちの家族･親族をはじめ、すべての人々に真の父母を伝えてほしいという願いを持って、先駆けて私たちを召命して下さいました。

真の父母様から頂いた真理のみ言にいざない、真の父母を伝え、祝福へと導く――。この伝道以上の聖業はありません。

必ずや伝道を勝利し、希望あふれる母の国・日本をつくり上げ、真のお母様を2016年秋にこの日本にお迎えして参りましょう！

[制作]
世界平和統一家庭連合
広報局
（旧 世界基督教統一神霊協会）

「祝 祖国光復必勝奉身代表者」、お母様が揮毫を下賜

李炯燮地区長の聖和式・帰歓式に 1100 人が参列

①送辞を述べる長男の李浩宗さん
②献花をする参列者
③李地区長を偲んで歌を披露する壮年合唱隊

5 月 25 日、李炯燮（イヒョンソプ）地区長の聖和式が、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長をお迎えし、徳野英治会長を主礼として、新宿家庭教会礼拝堂にて 620 人が参列する中で執り行われました。前日に行われた帰歓式には 480 人が参列しました。

午前 11 時から始まった聖和式は、五十嵐政彦第 3 地区長の司会で開会。黙祷の後、1998 年 3 月に真の父母様の命を受け、宣教師として来日してから今日までの李地区長の歩みがスライドショーで映し出されました。

東埼玉教区の柄本純子婦人代表の報告祈祷、略歴紹介の後、長男の李浩宗さんが送辞を述べ、「アッパ（お父さん）」と呼びかけながら、自然や家族が大好きで、言葉より行動や姿勢で伝えようとする父親との思い出を回想しました。そのうえで、父親の志を相続して、兄弟が共に母を助け、「み旨に頑張るから安心してください」と挨拶しました。

李地区長は、赴任先において壮年を中心とした合唱隊「ファーザーズ」を全国各地に結成してきましたが、今回は東埼玉、北東京、京都の各教区合唱隊がコラボで李地区長の思い入れのある「故郷無情」「栄光の王冠」を合唱しました。

続いて徳野会長より聖和の辞があり、生前の故人の人柄と愛の実績に時折拍手を送りながら、お母様が「祝 祖国光復必勝奉身代表者」という揮毫を下賜してくださったことを証しし、李地区長の霊界での活躍を祈願しました。

また、宋龍天総会長は特別メッセージで、ご家族にお悔みと慰労を捧げた上で、李地区長の功績を称賛。まだ若く働き盛りの時に殉職した李地区長は、母の国・日本の VISION2020 勝利の為の尊い祭物として、これからは霊界で真の父母様のそばで活躍するだろうと祝福の言葉を贈りました。

家族代表挨拶では、施主の江草美和子夫人が涙ぐみながら夫の闘病生活の様子を伝え、真の父母様からの揮毫の下賜や、多くの人々の励ましに感謝の言葉を述べました。

出殿式後、宋龍天総会長の音頭で「統一の歌」を歌い、会場全体が一つとなる中で、李海玉（イヘオク）総会長夫人が祝祷を捧げ、最後に李成萬（イソンマン）本部長が億万歳を四唱し、李地区長を天の父母様のもとにお送りしました。

天のみ旨をリードする人材輩出を

富山・新川家庭教会で献堂式

①新聖殿の前で記念撮影
②記念説教を行う宋総会長
③宋総会長のメッセージに拍手を送る参列者
④天父報恩鼓チームが元気いっぱいに演舞を披露

5 月 29 日、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長を迎えて、富山教区新川（にいかわ）家庭教会の新聖殿献堂式が行われ、約 150 人が出席しました。

第 1 部では、宋総会長の祝祷、代表者たちによるテープカット、記念撮影、聖別式が行われました。

第 2 部の記念礼拝で宋総会長は、かつて吉田松陰が開いた松下村塾から明治維新をリードする人材を輩出したように、「優れた人材を数多く輩出できる、そのような新川家庭教会となることが天の願いです」と激励しました。

第 3 部のエンターテイメントでは、天父報恩鼓チームによる踊り、壮年部によるコント劇、二世部、婦人部、地区長を始めとした牧会者らによる歌唱と続き、会場は大いに盛り上がりました。

最後は、宋総会長の歌に合わせて参加者が一緒に歌い踊り、待ちに待った献堂の喜びが礼拝堂にあふれるひと時となりました。

2016年は希望と挑戦の年！

宋総会長が第14地区の8教会を巡回

①南千葉・佐倉家庭教会でメッセージを語る宋総会長（6月2日）
②宋総会長のメッセージに耳を傾けるメンバーたち（同日、佐倉家庭教会）
③北千葉・八千代家庭教会の中心食口と（6月3日）
④水戸家庭教会に集まった食口たち（6月4日）

第14地区の南千葉、北千葉、茨城各教区の8教会で、6月2日から4日にかけて宋龍天（ソンヨンチョン）・全国祝福家庭総連合会総会長をお迎えしての特別集会が開催され、食口たちが希望をもって、決意を新たに出発する場となりました。今回はその中から、佐倉家庭教会の様子を紹介します。

◇　◇　◇

初めて宋総会長をお迎えした佐倉家庭教会では6月2日、約70人の食口が集い、特別集会が行われました。集会に先立ち行われた功労者集会、そして特別集会と連続で、宋総会長は家庭ごとに参加者全員と記念撮影し、最初から最後まで愛と心情に溢れる集会となりました。

集会では、「母なる祖国に祝福あれ」の讃美、南炅卓第14地区長の歓迎の挨拶に続き、宋総会長がメッセージを語りました。

宋総会長は始めに、真の父母様が手を繋いでいらっしゃるお写真をたくさん見せながら、参加者の心情をご父母様と連結。また、「み言の途中で歌を歌うのは初めてかもしれません」と言いながら、真のお母様の愛唱歌「愛を探して、人生を探して」を披露し、「歌を歌って私たちの夢を成就して参りましょう」と語りました。

その上で、「天一国時代の奇跡は、目に見える外的奇跡ではなく内的奇跡です。私達が新しくなり、私の愛が成長し、私が真の愛の人となる奇跡です」「家庭天国を成就し、周辺に横的に展開しましょう」と呼び掛けました。

また、佐倉家庭教会の印象について、「意外と明るい！食口一人ひとりが美しく光り輝いています。今日だけ輝いているのでなく！」とユーモアを交えながら話すと大爆笑が沸き起こり、会場はとても和みました。

最後に、宋総会長は「2016年は希望と挑戦の年です」と述べ、「今年、伊勢志摩サミットが行われ、2020年に東京オリンピックが行われるのは偶然ではありません。日本が天運と連結される為です」と強調。参加した食口一同、希望を持って出発しました。

集会後、宋総会長は公職者やスタッフを集め、その場で佐倉家庭教会のために「絶対精誠投入」と揮毫しました。

家庭連合の“ブランド”を携えて伝道に邁進しよう！

「真の万物の日」に徳野会長が記念メッセージ

①佐賀家庭教会に集まった食口たち（6月5日）
②真の万物日を祝賀しケーキカット（同日、佐賀家庭教会）
③説教を行う徳野会長（同日、福岡家庭教会）
④徳野会長の説教を聴く参加者（同）

5月末から6月始めにかけて、徳野英治会長は北東京教区（5月26日）、福島教区（同28日）、佐賀教区（6月4、5日）、福岡教区（5日）などを訪れ、真の父母様のみ言と願いを伝えながら、地元の食口たちを激励しました。その中から、6月5日に行われた「第54回真の万物の日」の敬礼式と特別礼拝の様子を紹介します。

◇　◇　◇

6月5日午前7時から、佐賀家庭教会（佐賀市）に徳野英治会長を主礼としてお迎えし、「第54回真の万物の日」の敬礼式が行われ、小さな子供連れの家庭を含め約230人の食口たちが集まりました。

敬礼式は、朴鍾泌（パクジョンピル）第12地区長の代表報告祈祷に続いて、徳野会長と朴地区長、柳京永（ユキョンヨン）佐賀教区長夫妻が祝賀のケーキカットを行いました。

徳野会長は記念メッセージの中で、「真の万物の日」を含む四大名節の意義について、「真の父母様が内的に勝利した証しです」と解説。また、「今の摂理を超えていくのは神氏族メシヤの勝利、伝道の勝利しかありません」と力強く語り、食口一人ひとりに伝道勝利に向けての決意を促しました。

続いて、会場を福岡家庭教会（福岡市）に移し、福岡、福岡西、福岡東各家庭教会のメンバーで礼拝堂が溢れかえる中、午前10時過ぎから「特別礼拝」が行われました。礼拝の様子は、インターネット中継で第12地区全体に配信されました。

特別礼拝は、敬拝、家庭盟誓唱和、代表報告祈祷に続き、福岡家庭教会の聖歌隊が祝歌「母なる祖国に祝福あれ」を讃美し、透き通る清らかな歌声が会場を包み込みました。

徳野会長は説教の中で、「イエス様と真のお父様の違いは何でしょうか？結婚したか、しなかったかです」と指摘。その上で、男女の違いの素晴らしさなどに触れながら、「祝福結婚とは、神様を知るため、自分にない神様の半分を相手を通して知り、人格を完成するためのものです」と述べました。

最後に徳野会長は、「我々には原理（み言）、真の父母、祝福結婚、聖和式という素晴らしいブランドがあります。これらを携え、自信と確信と希望を持って伝道に再出発して参りましょう！」と呼び掛けました。

“信じて愛して共に暮らす” 実践を

北九州でグローバルファミリーフェスティバル

①講演する阿部美樹家庭教育局長
②ピアノと二胡で美しいハーモニーを奏でる
③澄んだ歌声で会場を魅了した「ひびき少年少女合唱団」
④講演に耳を傾ける参加者

6月5日、熊本地震の被災者支援のためのチャリティー企画として、「グローバルファミリーフェスティバル」（主催・APTF 北福岡）が北九州市内の会場で開催され、アットホームな雰囲気の中、新規ゲスト 102 人を含む約 520 人が参加しました。

河村政俊・北福岡教区長の主催者挨拶、映像上映、来賓挨拶などの後、エンターテインメントでは、「音の樹」がデュオでのピアノ連弾としてシューマン作曲「子供の情景」などの曲目を演奏。「ピアニコ」の２人は、ピアノと二胡の独特な音色で絶妙なハーモニーを作りだしながら、エディット・ピアフの「バラ色の人生」など２曲を披露しました。また「聴く人々の心に響く演奏を」をモットーに掲げる「ひびき少年少女合唱団」が、子供たちの澄んだ声と美しいハーモニーを届けてくれました。

引き続き、阿部美樹家庭教育局長が「信じて愛して共に暮らす」と題して基調講演。人と関係を結ぶ「受け入れ上手」になるための「美の表現」や、人との関係を深める「与え上手」になるための「愛の表現」などについて、分かりやすく語りました。

「大抽選会」では、１等賞から８等賞まで 23 人が当選し、大喝采の中で景品を受け取りました。最後に、参加者全員で「上を向いて歩こう」の合唱し、フェスティバルは大盛況のうちに幕を閉じました。

参加者からは、「阿部先生の講演内容がとても良かったです。『相手に対して怒っていても、まず笑顔で言葉だけでも肯定的な言葉を使いましょう』などの内容が心に残りました。家に帰ってから取り組んでみることにします」（新規参加者）、「主人と中１の娘と一緒に参加しました。娘は『長い、疲れる』などと文句を言いながらも、感想を聞くと『合唱と講演がすごく良かった』と答えてくれました。主人も講演の内容に共感していました。阿部先生の話は、老若男女に受け入れられる内容で、新しいゲストに紹介しやすいと感じました」（婦人教会員）といった感想が寄せられました。

青少年の健全育成を求める声広がる

茨城・土浦でピュアラブラリー

①ピュアラブラリーの参加者
②家庭の大切さを訴える参加者
③小学生たちも元気に行進

5 月 29 日、晴れ渡った快晴の空のもと、「第 12 回茨城ピュアラブラリー＆マーチ in 土浦」（主催・APTF 茨城協議会）が茨城県土浦市の JR 土浦駅東口の近郊で行われ、約 70 人が参加しました。

ピュアラブラリーは、昨年６月に土浦市で行ったのを皮切りに、７月つくば、８月牛久、９月水戸、10 月日立、11 月取手、12 月土浦の各市をめぐり、2016 年に入ってからも１月つくば、２月石岡、３月水戸、４月鹿嶋、５月土浦の各市の順で、毎月実施してきたものです。

灼熱の太陽の光が照らす中でも、雨でも強風の中でも計画した日を一切変えずにラリーを決行。「純潔を守ろう」「同性婚パートナーシップ条例反対」「三世代が同居する温かな家庭を築こう」「過激な性教育は反対」などのメッセージを茨城県民に訴えてきました。

そんな中、茨城県ではある有識者が、県下の 44 市町村議会に「『青少年健全育成基本法の制定』を求める意見書提出に関する請願」を提出する運動を展開。これまでに 31 市町村議会で採択されています。

今回のピュアラブラリーに参加した県会議員も地元市議会での採択に一役買うなど、地道な取り組みが確実に成果を挙げつつあります。

熊本地震の被災地支援のためチャリティーバザー

愛媛・松山家庭教会

①チャリティバザーのスタッフたち
②たくさんの人々が詰めかけたバザー会場
③来場者を笑顔で迎えた受付スタッフ

6月4～5日の2日間にわたって、愛媛教区松山家庭教会で熊本地震の被災地支援のためのチャリティーバザーが開催されました。バザーは今回で18回目。

バザーは、全柱奉愛媛教区長のメッセージと祝祷で開幕。地域の方々から無償で提供された食器や衣類、小物、バッグなどが販売される一方、婦人メンバーがボランティアで準備したおにぎりやおでん、そうめん、デザートなどが来場者に振る舞われ、会場は楽しい交流の場ともなりました。

バザーには2日間で約300人が来場。様々な品物の購入を通じて被災地支援を行うとともに、被災地を一刻も早く復興させたいという思いから、義援金を差し出す来場者も多くいました。

松山家庭教会は5年前からチャリティーバザーの開催をスタート。今回のバザーには、この日を楽しみに参加した“常連”の家族のほか、近所に配布したバザーの案内ちらしを見て初めて来場した地域の人々もいました。1日目に来場した人が「ここのバザーはとてもいい！」とその趣旨に賛同し、2日続けて来場し、支援を行った人もいました。

2日間のバザーの収益金およそ40万円は、義援金として熊本の被災地に送られます。

UNITE が東京・渋谷、熊本でデモ行進

地元のテレビ・新聞が報道

①東京・渋谷のスクランブル交差点で
②東京・渋谷のデモ行進に集まった UNITE メンバー
③熊本市内をデモ行進する「UNITE KUMAMOTO」のメンバー

今年1月、東京大学の4人の学生によって結成された「国際勝共連合 大学生遊説隊 UNITE（ユナイト）」。その後、UNITE の活動に共鳴した大学生・青年たちが、日本各地で UNITE を結成し、演説活動を継続しています。

5月29日午後3時過ぎから、都内の大学生ら230人が“若者の街”東京・渋谷でデモ行進を行いました。

最初に UNITE の代表である東京大学3年の男子学生が、「日本と世界のため、今こそ若者が立ち上がらなければならないと考え、本日は志を同じくする大学生・青年が集まりました。ぜひ私たちの主張をお聞きください」と挨拶しました。

宮下公園を出発した一団は、「国民を惑わす（日本）共産党に騙されるな！」「日本を守れない今の憲法は改正しよう！」などと力強くコールしながら、渋谷駅ハチ公前を通過して神宮通公園までのコースを、およそ30分かけて行進しました。

なお、今回のデモ行進を一部のマスメディアが取材しましたが、テレビ東京が夕方のニュースで「改憲支持大学生が渋谷でデモ」と題し、その模様を30秒ほど放送しました。

熊本でも UNITE 結成

6月4日午後1時半過ぎから熊本市内の辛島公園で、熊本大学の学生を中心に「UNITE KUMAMOTO」の結成集会が行われ、地元の大学生・青年ら約60人が参加しました。

司会者が熊本地震で犠牲になった方々に哀悼の意を表明した後、「UNITE KUMAMOTO」代表を務める熊大の学生の挨拶に続き、3人の熊大生が、それぞれ今回の被災した体験に触れながら、「憲法改正の必要性」や「安保法制の重要性」、「家族の大切さ」などを訴えました。

結成集会後、辛島公園を出発した一団は、熊本市内を約1時間かけてデモ行進しました。

なお、結成集会とデモ行進を地元の「熊本日日新聞」が取材し、翌日の朝刊（6月5日付）に『「安保法制に賛成」県内学生ら結成集会』という記事が掲載されました。

6月には、7月の参議院選挙を見据え、上半期の UNITE の活動の集大成として国内20ヵ都市以上で UNITE 一斉の演説が2度（12日、21日）予定されています。

伝道勝利の証し

いつの時代であっても、食口の心が神霊と真理に満たされ、中心者と前線メンバーが一つとなる時、天は大いなる祝福を与えられる。そのような勝利的な証しを機関誌から紹介したい。

祝福二世の運勢で、札幌1000人大会が勝利

天一国特別宣教師　飯野貞夫

1973年1月1日、主に米国やヨーロッパのメンバーによるＩＯＷＣ（国際統一十字軍）が編成され、日本にもやってきました。40人が1チームとなって、各地で伝道の渦を巻き起こしていったのです。

1975年8月、ヘンドリック・ダイク団長（オランダ人）率いるＩＯＷＣの一団が船で北海道にやってきました。私たちは苫小牧港まで彼らを迎えに行き、大歓迎しました。

ところが彼らは、その前の任地で人間関係がうまくいかず、勝利できなかったということで、意気消沈していたのです。そこで私たちは、港から車で1時間ほどの支笏湖（千歳市）に彼らを連れて行きました。

そして青い空の下、美しい湖畔でバーベキューをして、もてなしたのです。

苫小牧港でヘンドリック・ダイク団長を歓迎する飯野特別巡回師（1975年）

こうして大自然に抱かれているうちに、彼らのふさいでいた心が、徐々に解放されていきました。ギターを弾きながら、皆で明るく歌い合う中で盛り上がっていったのです。北海道の自然は本州とは全く違います。ウエスタンのメンバーは、ふるさとである米国やヨーロッパを思い出して復興し、もう一度やる気を出してくれたのです。

彼らを迎えるに当たって、私は40人全員と帯同伝道ができるように、人数をそろえておかなければならないと思いました。それで、地区長とも協力し合い、皆で必死になって伝道に取り組み、数か月で40人を伝道することができたのです。

北海道に伝道の渦を巻き起こしたIOWCメンバー（1975年）

こうして協力態勢が整う中で迎えたＩＯＷＣのメンバーと共に、伝道活動が始まりました。札幌の大通公園の大掃除など、奉仕活動にも力を注ぎました。当時はウエスタンというだけで珍しい時代ですから、市民の注目を集めました。

そのときはちょうど、妻が2番目の子供を妊娠しており、出産予定日は9月18日でした。そこでダイク団長の発案で、9月18日を最終日とする40日路程を組み、最終日に札幌で伝道大会を開くことにしたのです。十字軍、ウエスタン、そして北海道のメンバーが一つとなって伝道に邁進した結果、9月18日の大会には1000人が集まり、大成功となりました。

そこから修練会につながる人、受講する人などが出てきて、結果的に120人を伝道することができたのです。当時の北海道の基盤を考えると、考えられないような勝利でした。

ＩＯＷＣのメンバーは、18日の伝道大会を終えると次の任地に移動することになっていました。ところがわが家の第二子は、予定日になっても生まれてきませんでした。ダイク団長は、「私たちは飯野家に生まれてくる赤ちゃんから運勢を頂いた。だからその顔を見ずしてはこの地を去れない」と言って、次の任地と交渉して、出発を延ばしてもらったのです。このように待ち望まれたわが家の第二子は、21日に無事に生まれてきました。これが次女です。

こうして、次女の顔を見たダイク団長をはじめとするＩＯＷＣのメンバーは、心から喜び、安心してくれました。そして勇躍、次の任地へと出発していったのです。

海外編

動員伝道で生まれた奇跡、食口10人が15年で300人に

ボリビア宣教師　佐川誠一郎

佐川誠一郎さん（777双）は、1996年8月、韓国の天宙清平修錬苑で、真のお父様からボリビア宣教のミッションを拝命。

翌97年1月、妻の春枝さんとふたりで希望に燃えてボリビア・コチャバンバ市に降り立ちました。そんな佐川さん夫妻を、予想もしなかった試練が立て続けに襲います。韓国、チリ人の責任者が相次いで帰国。サンタクルス市では、教会の建物をだまし取られそうになる事件が起き、裁判に。2002年の大統領選挙の時期には、全く身に覚えのない誹謗中傷が広がり、教会がマスコミによって全国で批判を浴びることに。この謀略的な報道で教会のイメージは最悪のものとなり、2年間は伝道ができなくなったそうです。

葦の素材で編んだボリビアの船「トトラ」の模型を真の父母様に奉呈（2005年）

2004年3月にようやく再度決心し、大学伝道に取り組みました。

「毎日ボリビア人メンバーとキャンパスに行き、ついに、有望な対象者2人に出会うことができました。主の路程は、私がスペイン語で直接講義し、脇でボリビア人メンバーが、言葉が足りない部分を補足してくれました。私は受講者のために断食、敬礼の蕩減条件を立てました。その一人、メルビーさんは献身的に歩むことを決意してくれたのです」

2005年には、一人で大学内での40日伝道を始めました。雨の中、傘も差さずにビラを配り、一人も立ち止まってもらえないまま4時間キャンパスに立っていることもありましたが、「この間、天宙復帰のために単身苦労なさっている真の父母様のご心情に触れる経験が何度もあった」と言います。

標高4000メートルの高地の都市オルロで開拓伝道するメンバー（2011年）

40日伝道路程が終わると、今度は教会の全員に呼び掛け、食事当番も、育児中の主婦も、とにかく気が狂ったように伝道しようと第2次40日伝道路程を組みました。これが奇跡を生みました。たくさんの人が伝道されてきたのです。

「キャンパスで声を掛けると、うそのように簡単に連れてくることができました。ちょうど、大学から教会まで霊的に通路ができていて、そこに対象者を乗せてやると、あとは自動的に運ばれていき、『原理』を受講し復活していくという、まれな体験でした。狭い伝道所はいつも満員で、通路では、講義の順番を数人が待っていました。このとき復帰されたメンバーが現在のボリビア教会の中核となっています」

この年の9月、「天宙平和連合（UPF）創設120か都市世界巡回講演」ツアーで、真の父母様がボリビアにも来られるというビッグニュースが飛び込んできました。佐川さんは語ります。

「霊界はこのことを前もって知って、できるだけ多くのボリビア人を主に会わせるように私たちを通じて、働き掛けていたのです。私たちは真の父母様に心から感謝の祈祷をささげました」

ボリビアは南米最貧国の一つ。親から1日1食しか与えられず成長してきたメンバーたちも珍しくありません。しかし、彼らは自分が飢えることより、もっと神を愛せるかと自分の限界に挑戦するようにたくましくなっていきました。

現地に赴任した1997年当時、10人弱だったボリビア人実践メンバーは現在300人にまで増えています。